

「オープン・レポート(木曜日)」(9/27)

「スペイン X デー」は秒読み段階か

マーケット エディターズ・吉田 恒

欧州債務問題で目先の焦点になっているスペインの支援申請、いわゆる「スペイン X デー」について、ある専門家は「個人的にはこの週末ないし来週初めにあるのではないかと思っている」との見方を示した。

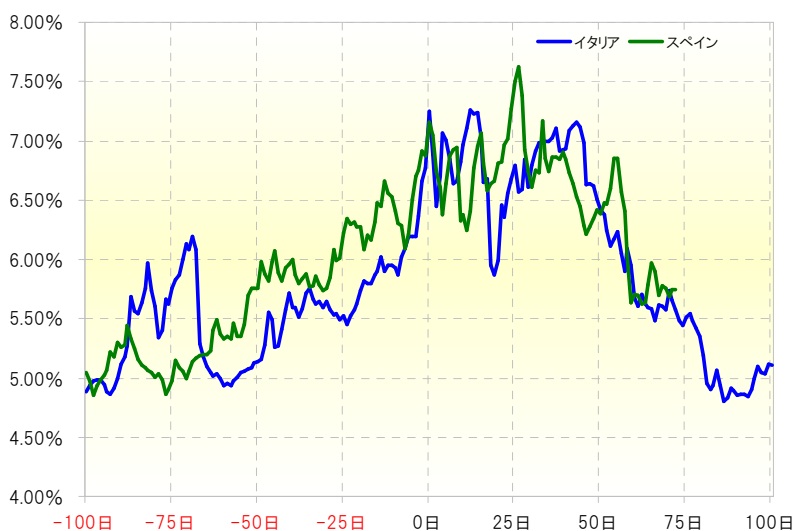
#### ◆リスクオン再開の鍵握る

スペインの支援申請については、9月28日説、ESM 発足を受けて10月上旬説、EU サミットのタイミングに合わせた10月中旬説、そして10月下旬のスペイン州選挙終了後といった具合に分かれているが、「遅くとも10月末までには実現する」との見方が基本になっている。

また、目先の焦点にはカタルーニャ州独立騒動やムーディーズによる国債格下げなどの不安要因も抱え、早期の支援申請について慎重な見方もある。

ただ、ある専門家は、「スペインの国債利回りが大幅に低下してきたのは、ECBの購入を織り込んだ結果であることはスペイン政府首脳ももちろん理解しており、あくまで支援に際しての条件交渉を水面下で行っているということが実態だろうから、10月初めにかけて申請が実現するのではないか」との見方を示した。

#### 《資料》



ところで、《資料》は、今年初めにかけての「イタリア危機」におけるイタリア 10 年金利と今回の「スペイン危機」でのスペイン 10 年金利の動きを比較したものだが、これまでのところよく似た展開が続いてきた。

この先もまだ似た動きが続くなら、スペイン 10 年金利は 5.5%を完全に割り込み新たな大幅低下に向かう局面が近付きつつあり、一方、金利の上昇余地は限られるようだ。この金利の見通しからすると、スペイン支援申請が早期に実現した場合の金利低下の反応余地は大きく、逆に申請が遅れた場合でも金利上昇余地は限られそうだ。

さて、このスペイン金利が象徴する欧州債務危機は、この数ヶ月、金融市場におけるリスク回避のリード役となってきた。7月下旬以降、欧州危機への懸念が後退し、スペイン金利が低下する中で、リスク回避の修正も広がってきたわけだ。

そんなスペイン金利低下が一巡したのは今月中旬だった。そういった中で、リスク回避の修正も中断、むしろリスク回避再燃の可能性も警戒されてきた。このように見ると、スペイン金利の大幅低下が再開するかは、リスク回避の再燃が回避され、リスク回避の修正(リスク選好)再開の可能性を占う上でも鍵を握ることになりそうだ。(了)